

【提供情報】 コロナ禍に向けて一致団結！日立市P連！！

日立市立小・中学校PTA 連合会会長 草地 学

今新型コロナウイルスの影響により開催が危ぶまれる中、県内では早い市P連の活動として、第1回単P会長会議を開催しました。

単P会長会議とは市内にある小・中学校39校のPTA会長、母親委員が集まり、子どもたちや学校について意見交換や学びの機会創出する場です。会議では、今年度の市P連の活動スローガン「一互一笑（いちごいちえ）」の発表があり、お互いが一つになり手を取り合ってPTA活動を行い、コロナに負けずに、子どもたちが笑顔になるために、活動を共に行ってきた仲間と一緒に笑顔を共有できることを目指そうと誓い合いました。

あわせて、事前に全単Pからコロナ禍における学校や子どもたちにおける課題を集め、日立市教育長に集計結果を提出しました。



2020年(令和2年)7月20日 月曜日

学力低下やストレス指摘

新型コロナ影響アンケート

新型コロナウイルスの影響で、学校現場は新学期の本格的なスタートが約2カ月遅れ込んだ。授業時間の確保を最優先とし、感染防止対策にも気を配るため、学校行事へのしわ寄せが懸念されている。こうした中、日立市立小・中学校PTA連合会(市P連)は各校PTAへのアンケートを実施。学力や体力の低下への不安、行事の中止やコミュニケーション不足によるストレスを指摘する意見が多く寄せられた。

市P連は市立小中学校の長時間化などの指摘が39校のPTA(単)で多く、再開後の学校生活構成は本年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、5月を境に授業再開から1ヶ月の総会開催を見送るなど、活動の制約を受けている。

市P連は6月末、新型コロナウイルスに関するアンケートを実施した。長期に及ぶ臨時休校の影響として「学力不足」「家庭学習習慣における学力格差」「体力の低下」「ゲームやテレビ、動画視聴」など、懸念する点も

このほか、再休校に備えた学習体制の整備や、誰が感染してもおかないと子どもたちの理解を進める必要性を求める回答もあり、行事も「何でもかんでも中止しなればよい」というものではないとの指摘もあった。

アンケートを踏まえ、市P連は11日、同市幸町1丁目の日立シビックセンターで第1回単P会長会議と四つの委員会を開催した。行政任せではなく自分たちで考え、情報交換するのが狙いで、約80人が参加した。市P連の草野学会長は「PTA活動も空白ができ、子どもたちの学校生活で苦労も多いだろう。コロナ禍の中PTAがどういったことをやっているか意見交換してほしい」と呼び掛けた。

会長会議に引き続き、生涯学習、未来、広報、母親の各委員会に分かれて意見交換。生涯学習委員会では委員から「コロナでできないものを考えた」「卒業生の子どもの思い出づらいつけ、学校側と規模を縮小してでもできないか」と話している。など、それぞれの表情が紹介された。

市P連は今後、意見をまとめ、市教委などに提言したい考えだ。(川崎勉)

日立市P連 課題探り意見交換



新型コロナウイルスの影響や課題について話し合った日立市立小・中学校PTA連合会の会合。同市幸町

会議のようす

